

文章題テスト・説明／論説(2)

月 日
名 前

★ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

二十年ほど前になろうか、わたしはテレビでこう言った。「動物と仲よく付き合うには目線を同じにしてやるのが大切です。」

するとしばらくしてこう言われた。「あなたがテレビで言ったこと、本当ですね。近くにおっかない犬がいますね、近づくとどうなるのです。しかし、目の高さを同じにして、よしよしと接近したら、すぐさまあまえてくれました。」

目線という表現が適切ではなかったのだろうが、物理的に目の高さを同じにすると誤解されたのには苦笑してしまった。

立って上から見下ろすよりも、しゃがんだ方がいづらかコウカはあるだろう。

わたしが言ったのは、精神のレベルを同じにするという意味だった。物理的に目の高さを同じにしなければ仲よくなれないのなら、ゾウやキリンと付き合う時には、ふみ台がいるではないか。イタチと付き合う際には、ね転んで顔を地面にくっつけねばならない。

実際には、そのようなめんどうなことは必要ではないのだ。分かりやすく言えば、半ばゾウになり切るというココロガマエを持っていれば、ゾウと親友になれるのである。

この五年ほど、わが家には都会から少年や少女がやってくるようになったが、特に動物好きだと親が言う少女は、大きな犬などを見ると走り寄って抱き「カーワイイ」とうっとりする。静かに頭をなでる。それだけだ。カーワイイというタイドは何日たっても変わらない。ここに問題がある。

カーワイイというのは、愛情が上から下に流れているだけである。大きさに言うなら、少女の命と犬の命が対等に向き合っていないのだ。犬と同じ平面で生きていれば、「あんた何よ」とこづくかもしれない。何よりも、やさしく頭をなでているだけではなく、走って遊ぶはずである。組みふせられて泣くはめになるかもしれない。しかし、それこそが、命あるものとの大切なやり取りなのだ。

(畑 正憲「ムツゴロウの動物交際術」による)



1 線ア→オについて、漢字は読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

ア 部首はそれぞれ「くさかんむり」、「たけかんむり」。

イ 訓読みはそれぞれ「きく」「はたす」。

ア くしょう

イ 効果

エ 「構」の音読みは「コウ」、「構成」など。

ウ なか(ば)

エ 心構(え)

オ 態度

2 線「目線を同じにしてやる」について、①、②に答えなさい。

オ 「態」は「能」「態」などの書きまちが多い。総画数は十四画。

① 筆者はどのような意味でこう言ったのですか。文中から十五字以内で書きぬきなさい。

精神のレベルを同じにする

9行目「わたしが言ったのは」の後に書かれている。

② このような動物との付き合い方に当てはまるものを、ア→エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア 低くかがみながら、よしよしと犬に接近する。

イ 高いふみ台にのって、ゾウやキリンと心を通わせる。

ウ ね転んで地面に顔をくっつけて、イタチをかわいがる。

エ 走り回ったり組みふせられたりしながら、犬と遊ぶ。

3 〇に当てはまる言葉として最も適当なものを、ア→エから選んで、記号に○をつけなさい。

なさい。誤解された考え方に対して、筆者の意見が続いている。

ア けれども イ つまみ ウ したがって エ そこで

4 線2「それだけだ」とありますが、ここではどのような意味ですか、筆者の考えに合うものを、

ア→エから選んで、記号に○をつけなさい。

最後の段落をよく読もう。「…頭をなでているだけではなく、走り回って遊ぶはず…」と述べられている。

ア それだけで十分だ

イ それだけでは不十分だ

ウ それだけが大切なことだ

エ それだけはいけないことだ

5 この文章の内容と合っているものを、ア→エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア 動物と仲よく付き合うためには、人間から動物に向かっていつも愛情が流れている必要がある。

イ 動物と仲よく付き合うためには、その動物になり切ってしまうという気持ちが大切である。

ウ 動物と仲よく付き合うためには、まず、その動物をかわいと思う気持ちを持つことが条件である。

エ 動物と仲よく付き合うためには、人間と動物の命が対等に向き合ってしまったてはいけない。第一段落で「動物と仲よく付き合うには目線を同じにしてやるのが大切」だとある。「目線を同じにする」は「精神のレベルを同じにする」という意味で、例えば「半ばゾウになり切る」ことだと述べている。「命と命が対等に向き合う」「同じ平面で生きる」も同じ内容の言い換え。